

令和３年度 広島市教員等育成に関する協議会議事要旨

1 開催日時

令和４年３月１１日（金） １０：００～１１：３０

2 開催場所

広島市役所北庁舎 ６階 教育委員会室 （オンライン開催）

3 出席者

(1) 大学関係者・学校関係者・教育委員会

石原 義文	（広島文教大学 教育学部 教授 教職センター長）
卜部 匡司	（広島市立大学 国際学部 教授）
梶田 英之	（比治山大学・比治山大学短期大学部 教職指導センター 副センター長）
神野 正喜	（広島女学院大学 人間生活学部 児童教育学科 教授）
高西 実	（広島文化学園大学 学芸学部 子ども学科 准教授）
立上 良典	（広島工業大学 教職課程センター長）
田中 宏幸	（安田女子大学安田女子短期大学 文学部 日本文学科 教授 教職センター長）
胤森 裕暢	（広島経済大学 教養教育部 教授）
土屋 英男	（広島国際学院大学 工学部 教授）
鶴田 一郎	（広島国際大学 教職教室 准教授）
西森 章子	（広島修道大学 人文学部 教育学科 教授）
福原 之織	（エリザベト音楽大学 教養・教職主事 音楽文化学科 教授）
佛圓 弘修	（広島都市学園大学 子ども教育学部子ども教育学科 教授）
松浦 武人	（広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授）
向居 暁	（県立広島大学 地域創生学部 地域創生学科 地域文化コース 教授）
作間 和恵	（広島市立幼稚園長会 代表代理（落合幼稚園長））
福原 剛	（広島市小学校長会 代表（長束小学校長））
田中 伸二	（広島市立高等学校長会 代表（美鈴が丘高等学校長））
松井 勝憲【座長】	（教育委員会事務局 教育次長）
横山 元信	（教育委員会事務局 総務部長）
野間 泰臣	（教育委員会事務局 学校教育部長）
川口 潤	（教育委員会事務局 学校教育部 指導担当部長）
松浦 宰雄	（教育センター 所長）

(2) 事務局

教育企画課長、教育企画課情報化推進・学校支援担当課長、教職員課長、健康教育課学校安全対策担当課長、指導第一課長、指導第二課長、教育センター次長

4 意見聴取及び協議（公開）

(1) 教員の資質能力の向上に関することについて

ア 指標に基づく若手教員の資質向上に係る取組について

イ ICTを活用した授業づくりについて

(2) 教員の養成に係る大学・学校・教育委員会の連携について

ア 教員を目指す学生の意欲を高める取組について

(3) その他

5 傍聴人の人数

０名

6 資料

(1) 資料１ 指標に基づく若手教員の資質向上に係る取組について（報告）

(2) 資料２ ICTを活用した授業づくりについて

- (3) 資料3 令和3年度教育センターにおけるICTの活用に係る研修
- (4) 資料4 令和3年度ひろしま未来教師セミナーの実施状況について
- (5) 資料5 教師を志す学生のための「広島市教育センター見学」の状況について
- (6) 資料6 令和3年度「大学生による学校支援活動」の活動状況について
- (7) 資料7 大学からの意見・質問について

7 議事内容（要旨のみ）

出席者の主な発言は以下のとおり。

【○：構成員（大学関係者・学校関係者） ●：構成員（教育委員会・事務局職員）】

(1) 指標に基づく若手教員の資質向上に係る取組について（報告）

資料1に基づき、事務局から説明。

- 指標に基づく若手教員の資質向上に係る取組は継続的な取組である。

教員は多忙な業務を遂行しながら自分自身を振り返ることや、同じような立場や経験を持つ教員と話し合うことが難しい。そこで、指標を定めて研修という場を設けることにより、教員ができていないこととそうでないことを確認することが重要である。引き続き取組を継続していきたい。

- 別紙2の初任者研修のセルフマネジメントシートの働き方の工夫という欄は、働く主体として働き方改革の時間的効果を意識して書くものなのか。それとも、いかに効率的に効果を出すのかという視点で書くものなのか。

- 教員には働き方改革を踏まえて記載するように指導している。特に、効率的な働き方についてのアイデアを協議、交流する際に活用している。

(2) ICTを活用した授業づくりについて

資料2及び資料3に基づき、実施の授業の様子の動画も用いて事務局から説明。併せて事前に質問があった項目（資料7）について回答。

- 本市では、今年度全ての学校にWi-Fi環境を整備し、児童生徒にタブレット端末を一人一台配付し、授業での活用を始めたところである。ICT機器は学習の手段であり道具であるが、これをどのように活用していくのかということについては、不慣れな部分や試行錯誤しているところである。

- 学生への指導の参考とするため、気になることを2点お聞きしたい。

1つ目は、児童生徒にタブレット端末を配付する際のことについてお聞きしたい。

情報モラルを含むタブレット端末の使用方法に関する指導については、各学校に任せているのか、それとも教育委員会として統一したものがあるのか。

2つ目は、児童生徒が作成した作品や写真等の記録についてお聞きしたい。

授業の様子を動画で視聴し、児童生徒が作成した作品などの写真の情報共有を大切にしていることが理解できた。この写真等の記録の整理や蓄積は、学校に任せているのか、それとも各学校共通のルールがあるのか。

- 1つ目の情報モラルを含むタブレット端末の使用方法に関する指導については、各学校においてタブレット端末を配付する時点で10の約束などを決めて児童生徒に配付している。その雛形については、先進校で使ったものを他校に周知している。

その他には、文部科学省が公開しているモラル教育の動画や指導案をセットにしたものを学校に通知している。学校ではそれを活用して授業を行っている。授業の内容や時期については、各学校が年間計画を立てて取り組んでいる。

2つ目の写真の整理や蓄積については、現段階では情報教育推進校・情報教育実践校に任せている。貴重な資料であることや子どもたちの財産にもなるため、保存については、この一年間の状況を踏まえ、検討していく。

- 情報の管理については、児童生徒の評価を行う際の情報にもつながると思う。また、教員のノウハウを共有化していくことについて今後も情報収集をしていただきたい。
- 視聴した動画は、一斉学習、個別学習、協働学習のICTを活用した3つの場面であり文部科学省が示しているものと同じである。文部科学省では、さらに10の指導事例に分けているが、広島市としてはそれらを合わせて3つの場面で考えていると捉えた。研究指定校を指定する際は、3つの場面や10の指導事例の指定までしているのか。それとも各学校の児童生徒の実態や学校教育目標に基づき、各校が主体的に重点的に研究推進しているのか。
- 推進校におけるICTを活用した授業の取組は、開始から半年程度とまだ間がない状況である。まずは活用を試みることを重視している。現在集めた実践記録については、3つの場面に当てはめている状況である。今後、多くの実践記録が集れば10の指導事例に分類し、各学校に周知していきたいと考えている。
- ICTの推進に当たり用心すべきではないかと思うことを2つお伝えしたい。
1つ目は、国語教育の立場からすると言葉の学習という面で気になる部分がある。
まず、ICTを活用することにより、聞く・話す・見るといった力には、より高まると思うが、読む力については、画像を見るだけの学習になり、筋道を立てて文脈を読む、自分の考えを書く、行間を心情まで読む、といった学習の保証について常に意識する必要がある。
また、授業の振り返りの際にiPadを使用して文章化する学習を見ることがあるが、児童生徒の振り返りがパターン化し、自分の言葉としてストンと胸に落ちているのか疑問に思う。教員は、そのような点を意識することが必要ではないだろうか。教員は、児童生徒がICTを活用しながら自分の思いや考えを文章化する力を身に付けるにはどのようなことが必要なのかを考えなくてはいけないと思う。
2点目は、コミュニケーション能力や交流ということの意味について考えておかなければならないと思う。オンライン化が進み考えられない程の情報共有ができるようになるが、感情の共有はできているのだろうか。大学生を見ていると、互いに関わっているようだが孤独を感じているように見える。オンライン授業が続き、退学や休学する学生が例年より増加している。オンライン授業で、情報や知識は伝えられるが、互いの感情の共有については大人や大学生でも難しいため、児童生徒にはさらに難しいと思う。対面であれば補えることが教室の中でICT機器を使って交流していることで、本当の感情の共有にまでつながっているのかという視点を我々は忘れてはいけないのではないだろうかと思う。
- 臨時休業中に児童生徒が家庭でタブレットを活用することについてお聞きしたい。タブレット操作の習熟度はそれぞれ異なるため、仮にトラブルが発生した時に対応できる場合とそうでない場合があると思う。そのような場合にすぐフォローやサポートする方が家庭内に居るかどうかという環境の違いにより、できたりできなかったりしたことの事例があれば伺いたい。
- 学校現場からの話では、操作を誤ることやタブレットが動かなくなることがあったと聞いている。そのような場合は、電話で連絡をしつつ直接指示を送るなどして対応している。学習保障が一番の目的であるため、学習ができなかった児童生徒がいた場合には、後でプリントを渡すなど個別な対応によりフォローをしていると聞いている。学校にICT機器の操作に長けた教員がいない場合には、指定校から教員を派遣してすぐに対応できるよう、チームとして教育委員会と学校が連携して準備をしている。
- (3) 教員を目指す学生の意欲を高めるための取組について
資料4、資料5及び資料6に基づき事務局から説明。併せて事前に質問があった項目（資料7）について回答。
- 教員を目指す学生の意欲を高める取組について事前にいただいたご質問「教員を目指す

学生の意欲を高める取組としては、教員数の増員や勤務時間の短縮など、より具体的な取組が必要だと思う。」に回答する。

教員の増員については、国に対して毎年様々な機会を通じて加配の要望を行っている。

また、教員の働き方改革については、教員が子どもに向き合うことができる時間を確保し、総合的な指導を持続的に行うことができるようにするため、勤務時間外の在校等時間の縮減や年次有給休暇の取得日数などの目標を設定し、その目標の達成に向けて、定時退校日の設定など、26の項目に具体的に取り組む「学校における働き方改革」を進めている。

こうした働き方改革の取組等については、毎年、本協議会に加盟されている大学を訪問し、学生に説明するとともに、採用試験募集時の説明会においても伝えているところであり、今後もこうした様々な機会を通じて本市の取組を説明していきたいと考えている。

本市教育委員会では、教員を目指す学生のみなさんの意欲を高める取組として「ひろしま未来教師セミナー」を実施し、その中で本市の学校を訪問し、子どもたちのいきいきとした姿を見てもらうとともに、若手の先生から教員のやりがいと魅力について、直接話を聞く機会を設けている。また、学生のみなさんが志望動機や目指す教師像などを語り合う機会も設けている。学生のみなさんには、ぜひこのセミナーに参加していただき、子どもたちの成長に直接携わる教員の「やりがいと魅力」を体験的に学んだり、学生相互が交流したりしていただきたいと考えている。

来年度以降も、こうした取組を進めていくので、各大学におかれても、今後とも学生のみなさんが教員を目指す意欲を高めることにつながる取組を進めていただきたい。

- 学生に教員の魅力を伝えるには、具体的な業務内容を伝える必要があると思う。その点からすると、「ひろしま未来教師セミナー」は学生にとって大変魅力的である。

教育センターのホームページには、昨年まで外部の者が閲覧できなかった動画がアップされている。これを大学の授業に関連させて学生に話すことができる。さらに、学生に学校現場でどのような教育をしているのかを伝えることは難しいのだが、今年度は学校訪問が増え、その詳細を教育センターがホームページに掲載しているため、話題にすることができる。つまり、教育センターが取組を情報提供していただくことは、学生に還元できるためありがたい。

教育センターの見学に参加した本学の学生は、参加してよかったと言っていた。教育センターの場所、施設の設備等の様子などがよくわかったことや、職員に対応していただいたことがとてもいい経験になった。この取組についても継続していただけるとありがたいと思っている。

- 感染症等の蔓延に備えた取組について事前にご質問いただいていることについて回答する。

市立学校においては、国の「新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づいて、手洗いや咳エチケット等の指導、消毒や換気の徹底等の感染症対策を行っている。現在、バージョン7が文部科学省のHPに掲載されているので、参考にしてほしい。

また、本年1月以降、児童生徒等に新型コロナウイルス感染症患者が増加していることを踏まえ、特に、可能な限り常時換気に努め、十分な換気ができているかを把握するためにCO2モニターを活用すること、より効果の高い不織布マスクを可能な限り着用させ、鼻と口の両方を確実に覆うよう指導すること、大勢がよく手を触れる箇所の共有する部分や物品の清掃・消毒の回数を増やすこと、等に留意し、感染拡大防止に努めている。

学校で新型コロナウイルス感染症患者が発生した場合は、国のガイドラインに基づき、3日から5日間を目安に学級閉鎖を行っており、その基準は、同一の学級において感染可能期間に登校している複数の児童生徒等の感染が判明した場合や、感染が確認された者が1名であっても、周囲に未診断の風邪等の症状を有する者が複数いる場合は学級内で感染が広がっている可能性が高いとして、学級閉鎖を行っている。このほか、複数の学級を閉鎖するなど、学年内で感染が広がっている可能性が高い場合は学年閉鎖、複数の学年を閉鎖するなど、学校内で感染が広がっている可能性が高い場合は学校全体の臨時休業を行うこととしている。なお、2月以降は学級閉鎖のみの措置となっている。

- 感染症対策の内容と共に、学生の意欲を高める取組について感謝している。
- これに関連して情報提供させていただきたい。一般社団法人教育ネットワーク中国というコンソーシアムの組織がある。教職を目指す学生諸君のキャリア形成を支援するため、これからの教師像という研修を今年度はオンラインで二日間実施した。申し込みは178名、実際の参加者は159名だった。参加者からは高い満足感を得ることができた。
- 研修の内容としては、感染症対策をしながら学校現場で若手の先生方がどのような取組をしているのかということオンラインでリアルタイムに学生と対話的に進めたことや、広島市立宇品中学校長から、「生徒指導のポイント」と題して話を伺うことができた。
- 学生の教職への意欲、学校現場に伺う際にどのように感染症対策をしながら教職への志を高めていくと良いのかということについて考える機会となったという感想をお聞きしている。
- この取組に関しては、ひろしま未来教師セミナーとの日程調整などについて、連絡を取りながらご苦心いただいたため、お礼を申し上げたい。引き続きよろしくお願いします。